



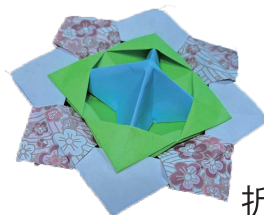
陶器で作った干支



だるまのお皿



だるまのおちょこと
ぐい呑み



折り紙こま



「希望」の願いをこめて



クリスマスリース



訪問リハビリチームで優良職員賞をいただきました。

～SNSで西部訪リハの情報をお伝えしています～



新年の挨拶



訪リハでの作業

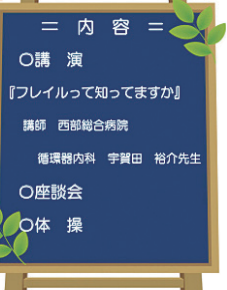


訪リハ中の風景

『おれんじかふえウエスト』報告

2025年11月29日に地域包括支援センター西部総合主催第2回『おれんじかふえウエスト』が開催されました。

次回は1月開催となります。ぜひご参加ください。



SNSやってます！



YouTube



Instagram



2026年新年ご挨拶

明けましておめでとうございます。日頃より西部総合病院の訪問リハビリテーションをご利用いただき、心より御礼申し上げます。

私たちは、住み慣れたご自宅で安心して療養を続けていただけるよう、訪問診療と訪問リハビリテーションが連携し、一人ひとりの生活に寄り添った医療・ケアを大切にまいりました。定期的な訪問診療による健康管理と、身体機能や生活動作を支える訪問リハビリは、これからの在宅生活に欠かせないものです。



本年は冬季オリンピックやサッカーワールドカップが開催される年であり、午年にふさわしく、駆け抜ける馬のような日本選手の躍動に大きな期待が寄せられます。私たちもその姿に力をもらいながら、皆様の「その人らしい暮らし」を支えられるよう、職員一同努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



聖光会メディカルケアグループ
医療法人聖仁会 西部総合病院
理事長 西村 直久

健康寿命を延ばそう！！

介護予防シリーズ 第12回 認知症フレンドリーまちづくりセンター について学ぼう



<https://www.saitama-orange.com/>



認知症の人が住み慣れた場所で自分らしく安心して生きることができるまちの実現に向けて、さいたま市では、認知症の人本人を含めた地域や企業など多様な主体がまちづくりに参画し、連携を促進する拠点となる「さいたま市認知症フレンドリーまちづくりセンター」を令和6年7月中央区にオープンしました。認知症に関連した地域や企業の様々な取組・情報を集約し、情報発信や地域、企業の活動と交流支援を行う相談窓口です。コーディネーターが地域や企業の活動に関するご相談をお受けし、地域へ出向いて支援しています。

次号では、認知症希望大使について解説していきます。

できた!! 報告会

Vol.42

「片手で作製! 孫への手作りガラガラ」

孫と一緒に遊ぶため、手作りのおもちゃを作ってみました。

左片麻痺を患い、左手が思うように動きませんが、ペットボトルを固定することはできます。

【作り方】

1. ペットボトルの中にビーズを入れる
2. フタを開け、ビニールテープで固定する



感想

本人：ビーズを入れるときに少し床に落としちゃったけど、結構簡単にできたからよかったよ。孫が喜んでくれたらいいな。遊ぶのが楽しみだよ。

奥様：左手が思いのほかに使えてびっくりしました。次のお休みに孫が遊びに来るみたいだから「お父さんが作ったんだよ。」って教えてみます。

セラピスト：お孫様のためにやる気になって作業に取り組まれていて、とても素敵でした！



満足そうなSさん

できた!! 報告会

Vol.43

「俺流の運動習慣! ペダル漕ぎ!」

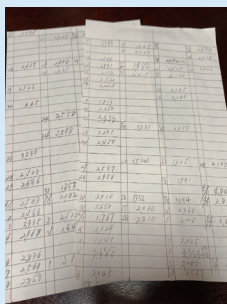
御年94歳のIさん。左大腿骨骨折の手術後、家に帰ってきてからベッド上でテレビを見て過ごす毎日・・・。

自由に身体も動かない中で、日頃どのような運動方法があるか本人と家族で悩んでいた時に見つけたのがペダル漕ぎでした。

ベッドに座りながら足の運動ができるので、今の生活リズムにピッタリ!

最初は頻度が少なかったものの、体調に寄りますが、多いときで週4~5回行えるようになりました。

現在では体力も向上し、歩行器を使用しながら見守りレベルで歩けるようになりました。



実施したら毎朝ノートに記載し、記録をつけています。一日3000回以上回す日も!?



ペダル漕ぎはネットで購入されたとのこと。



出来るときにしかやらないけど、そのくらいが俺にはちょうどいいんだ。今後も頑張るぞうにやってくよ。



毎回ペダルを運んだりして用意するのはちょっと大変だけど、お父さんが頑張ってくれてるのは嬉しいね。



なかなか自由に身体が動かない中で、日々努力される姿勢がとても素晴らしいと感じています。自主練習については無理なく行ってください。応援しています。

できた!! 報告会

Vol.44

電動車椅子導入で広がる生活の可能性

今回、左片麻痺を発症し1年が経過した当訪リハ利用者さんの電動車椅子利用までの経験をインタビューさせていただきました。

Q. 電動車椅子を導入するまでの経緯

リハビリ開始当初から提案はありましたが、導入まで約1年かかりました。心理的抵抗と費用面が理由でした。『電動車椅子=障害が固定化』というイメージが強く、最終的には杖なしで歩きたいという目標があったためです。さらに、介護保険で補助はあるものの、通常の車椅子より高額で収入減少もあり躊躇していました。

Q. 気持ちが変わったきっかけは?

リハビリを続けても歩行が難しい現実を受け入れ、長期戦になると判断しました。妻への介護負担を減らしたい、外出範囲を広げたいという思いが強くなり、リハビリ会議での医師の『長くなるけど頑張ろう』という言葉や試乗時の『車を運転しているような感覚』が決め手でした。



Q. 実際に使ってみてどうですか?

『楽しい!』の一言です。自分で操作できることで自立した感覚があります。外出の自由度が増し、ショッピングモールやイベント、映画鑑賞など諦めていたことができるようになりました。操作性が良く、バッテリーは約2週間持ち、安全機能も安心です。

Q. 今後やりたいことは?

遠方の買い物やイベント参加、クリスマスマーケットやイルミネーション鑑賞を計画しています。去年は諦めたことが、今年は実現できそうで楽しみです。



◀ 電動車椅子でクリスマスマーケットに参加している様子。

Q. 読者へのメッセージ

『気が乗らないなら無理に導入しなくていい。でも、乗ると楽しいです!』外出したい人には特におすすめです。家の中だけで使うには不向きですが、広いスペースや外出目的なら有効です。費用は高額ですが、介護保険を使えば負担は軽減できます。まずは試乗してみることをおすすめします。

担当より：インタビューの内容から、電動車椅子は単なる移動手段ではなく『生活の質を高めるツール』であることが伝わってきました。ぜひ参考にしてください。